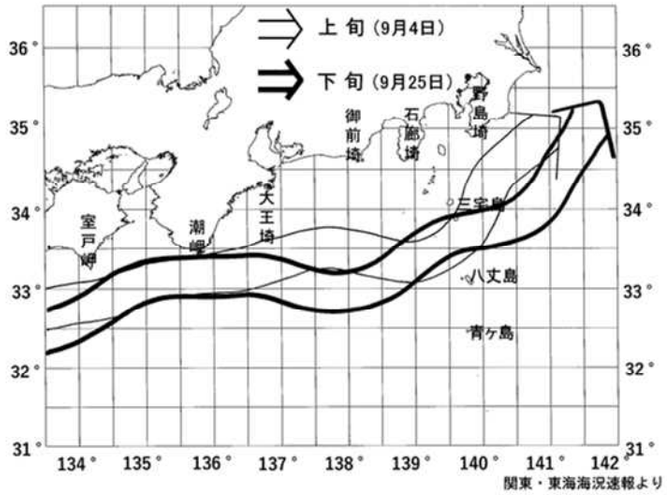
漁海況月報

令和８年９月１日

No. 9　　～9月30日

静岡県水産・海洋技術研究所
（電話 054-627-1815）
静岡県水産・海洋技術研究所　伊豆分場
（電話 0558-22-0835）



関東・東海海況速報より

９月定地水温の旬平均値（℃）　（下段は平年値*からの偏差）

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	25.8	25.6	25.9	25.2	26.9	26.0
	0.6	0.4	0.9	−0.6	1.1	0.1
中旬	24.2	25.1	24.7	24.6	26.1	24.3
	−0.7	0.1	−0.2	−0.8	0.8	−1.1
下旬	23.7	25.0	24.7	24.1	25.8	24.5
	−0.3	0.7	0.6	−0.4	1.5	0.3
月	24.6	25.2	25.1	24.6	26.2	24.9
	−0.2	0.4	0.5	−0.6	1.1	−0.3

＊平年値：過去30年（平成３年～令和２年）の平均値

［黒 潮 流 路］

月を通して、潮岬沖33.0°Ｎ付近を東進し、八丈島の北を北上するＮ型基調の流路で推移した。

上旬は、潮岬沖から石廊埼沖まで東進した後、三宅島の東を通過しながら、野島埼沖を北東へ流去した。野島埼沖の黒潮北上部から北西へ向けて暖水波及が見られた。

中旬は、潮岬沖から御前埼沖まで東進した後、三宅島の南を通過しながら北東へ流去した。三宅島東側の黒潮北縁部から石廊埼へ向けて暖水波及が見られた。

下旬は、潮岬沖から御前埼沖まで東進した後、三宅島の南を通過しながら北東へ流去した。顕著な暖水波及は見られなかった。

［沿 岸 域 水 温］

上旬は伊東、下田、沼津で「やや高め」、稲取、焼津で「平年並」、雲見で「やや低め」であった。中旬は沼津で「やや高め」、稲取、下田で「平年並」、伊東、雲見、焼津で「やや低め」であった。下旬は沼津で「高め」、稲取、下田で「やや高め」、伊東、雲見、焼津で「平年並」であった。

［竿 釣 カ ツ オ］

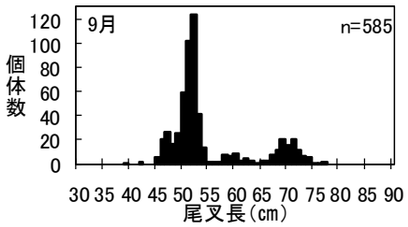
９月の県内主要５港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げは11.9トンで前年同月（44.0トン）の27%であった。平均単価は700円/kgで前年同月（513円/kg）を上回った。

漁場は新黒瀬や三重県浮魚礁No,１などで、９月３日と25日に御前崎港で実施した市場調査で測定したカツオの尾叉長組成は中（尾叉長52cm）が主体であった。

竿釣り（近海＋沿岸船）カツオ水揚量（県内主要５港）

期　間	水揚量（ﾄﾝ）	水揚隻数	平均水揚量／隻（ﾄﾝ）	平均単価（円/kg）
R8年９月上旬	7.7	7	1.1	619
中旬	−	−	−	−
下旬	4.2	2	2.1	848
R8年９月　計	11.9	9	1.3	700
前年同月　計	44.0	30	1.5	513
平年*同月　計	93.2	36	2.6	423

＊平年…過去５年平均（令和３年～令和７年）



御前崎港で測定したカツオの尾叉長組成

［定　置　網］

伊豆半島東岸大型定置網７か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は303.9トンで、前年（224.0トン）の1.4倍、平年（332.2トン）の91%であった。また、１か統当たりの水揚量は43.4トン（前年：32.0トン、平年：47.5トン）であった。水揚量の多い漁場は、伊豆山漁場（100.9トン、マルソウダ、ヤマトカマス、マアジ）、次いで古網漁場（86.7トン、ヤマトカマス、マルソウダ、マアジ）であった。

多獲された魚種の水揚量は次表のとおりで、ヤマトカマスは86.0トン（前年比8.0倍、平年比2.9倍）、マルソウダは82.0トン（前年比5.8倍、平年比1.7倍）、マアジは40.2トン（前年比1.1倍、平年比1.5倍）であった。さば類は33.5トン（前年比40%、平年比26%）で、水揚げされたさば類のうち、マサバは0.1トン（前年比6%、平年比1%）、ゴマサバは22.2トン（前年比30%、平年比20%）、さばっこは11.2トン（前年比1.3倍、平年比75%）であった。マイワシは11.6トン（前年比1.8倍、平年比95%）であった。その他の魚種については、カンパチ（11.1トン、前年比17.9倍、平年比18.8倍）が昭和57年以降、最も水揚量が多かった。

多獲された魚種の主な漁場は、次表のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、ヤマトカマスでは北川漁場が33%（28.0トン）、古網漁場が29%（25.2トン）、伊豆山漁場が26%（22.3トン）、マルソウダでは伊豆山漁場が33%（26.8トン）、古網漁場が25%（20.2トン）、北川漁場が23%（18.8トン）、マアジでは伊豆山漁場が50%（20.2トン）、古網漁場が35%（13.9トン）、さば類では伊豆山漁場が46%（15.3トン）、

北川漁場が21%(7.1トン)、古網漁場が17%(5.8トン)、マイワシでは伊豆山漁場が58%(6.7トン)、古網漁場が42%(4.9トン)であった。

＊平年：昭和57年～令和7年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚　種	水揚量（トン）	前年比	平年比	主な漁場
ヤマトカマス	86.0	7.98	2.89	北川、古網、伊豆山
マルソウダ	82.0	5.81	1.74	伊豆山、古網、北川
マアジ	40.2	1.09	1.50	伊豆山、古網
さば類	33.5	0.40	0.26	伊豆山、北川、古網
マイワシ	11.6	1.80	0.95	伊豆山、古網

[まき網（さば類）]

県内3港（伊東、沼津、小川）のまき網による水揚量はマサバ9.2トン（前年同月比27%）、ゴマサバ236.2トン（前年同月比27%）であり、1か統当たり水揚量（CPUE）はマサバ0.2トン（前年同月比40%）、ゴマサバ5.0トン（前年同月比39%）であった。平均単価はマサバ345円/kg、ゴマサバは227円/kgであり、いずれも前年同月（マサバ：176円/kg、ゴマサバ：142円/kg）を大きく上回った。

県内主要3港のさば類（まき網）水揚量

漁　港	水揚量（トン）		水揚統数	水揚量/統（トン）		平均単価（円/kg）	
	マサバ	ゴマサバ		マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ
伊　東	3.0	29.5	8	0.4	3.7	434	215
沼　津	5.9	97.1	27	0.2	3.6	287	208
小　川	0.3	109.6	12	0.0	9.1	608	248
R8年9月　計	9.2	236.2	47	0.2	5.0	345	227
前年同月　計	33.8	883.7	69	0.5	12.8	176	142
平年同月　計	47.8	388.8	45	1.1	8.7	104	124

＊平年…過去５年平均（令和３年～令和７年）
＊水揚量については、港ごと、旬ごとに四捨五入しているため、月計と一致しないことがある。
＊CPUE（１か統当たり水揚量）の算出に船団規模は考慮していない。

[まき網（いわし類）]

マイワシの水揚量は、小川港では72.0トン（前年同月比12.8倍、平年同月比5.4倍）、沼津港では100.9トン（前年同月比9.4倍、平年同月比9.1倍）、伊東港では98.2トン（前年同月水揚げなし、平年同月比18.3倍）であった。静浦港では水揚げがなかった。

カタクチイワシは、小川港、沼津港、伊東港、静浦港では水揚げがなかった。

＊平年：過去5か年（令和3年～令和7年）平均値

[シラス船曳網]

県内7港の水揚量は511.4トンで前年同月（380.9トン）の1.3倍、平年同月（過去5か年平均：329.1トン）の1.6倍であった。また、1日1か統当たりの水揚量は386kgで、前年同月（201kg）の1.9倍、平年同月（208kg）の1.9倍であり、海域別では、遠州灘（新居、舞阪、福田、御前崎）が429kg、駿河湾（吉田、用宗、由比）が332kgであった。

平均単価は630円/kgで前年同月（1,580円/kg）の40%、平年同月（1,256円/kg）の50%で、前年同月、平年同月を共に大きく下回った。

7港のシラス水揚量

漁　港		水揚量（ﾄﾝ）	延日数	延統数	平均水揚量（kg/統）	平均単価（円/kg）
遠州灘	新　居	31.0	8	76	407	483
	舞　阪	149.8	10	368	407	519
	福　田	87.7	9	202	434	638
	御前崎	49.7	12	96	518	637
駿河湾	吉　田	83.2	12	280	297	756
	用　宗	103.0	12	222	464	719
	由　比	7.1	5	81	88	698
R8年9月　計		511.4	68	1,325	386	630
前年同月　計		380.9	94	1,897	201	1,580
平年同月　計		329.1	76	1,586	208	1,256

＊平年：過去5か年（令和3年～令和7年）の平均値
＊各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

[調査船駿河丸の動向]

8月17日からドック中。

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ
トップページ…… https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/
海洋情報のページ…… https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/01ocean/
右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、関東・東海海況速報等を見ることができます。